

伝えていきたい 平和の大切さ

区では、さまざまな平和啓発イベントを行っています。これまでに開催したイベントで区内在住者に語っていただいた戦争体験談を紹介します。

図総務課総務係☎(5273)3505

戦争体験談① 学童疎開と終戦直後の暮らし



いのうえよういち
井上陽一さん(終戦時11歳)

昭和9年生まれの私にとっては、やはり学童疎開と戦後の暮らしが忘れられません。

昭和19年、次第に激しくなる米国空軍の空襲から小国民を守るとの政府と軍の方針で安全な地方に親戚のない者は学校単位での疎開(集団疎開ともいわれた)が行われました。

かぞく
家族を思って夜はひそかに涙し
朝が来れば歌を歌い畑仕事も

当時、小石川区(現文京区)竹早小学校に通学していた私たちは浅草区(現台東区)の児童と共に宮城県鳴子町に疎開することになりました。初夏のある日、わずかな学用品と衣類を背負い、友人たちと遠足気分で行行列車に乗り込みました。陸羽東線鳴子駅に着いたのは翌日昼ごろ、駅は大歓迎の町民でいっぱいでしたが温泉町特有の硫黄の匂い



姉への手紙

にびっくりしたことが忘れられません。

疎開の第一陣は5〜6年生で、私は当時5年生。その後に下級生も加わってきました。

当初は友人たちと旅行気分楽しく過ごしていましたが、3〜4日すると両親や家族が恋しくなり、就寝時に布団の中で周囲に聞こえぬように泣く子が増えました。それでも翌朝は一斉に起床し、東京に向かって挨拶の後、「疎開は勝つ為国の為〜」と歌って一日をスタートさせました。午前中は宿泊旅館の大広間で長机を並べて授業、午後は畑仕事。時には戦闘機用に使う油を取るというので、松の根(松根油)を掘る作業がありましたが、非常にキツイものでした。食事は米どころの宮城県ながら質量ともに不十分で、東北地方特有のワラビが味噌汁、煮物、漬物に出てくるのには閉口していましたが、秋には栗拾い、冬にはスキーと東京では経験できないことを楽し



終戦後、疎開先で書いた日記

しむこともできました。

ほぼ1年が過ぎた8月15日の朝、町中にラジオ放送が流れ鳴子小学校校庭への集合が命じられました。正午に始まった玉音放送は電波状態が悪く聞き取りにくかったのですが、前列に並び先生たちが一斉に泣き崩れ「敗戦」を知ることとなりました。宿舎に帰る山道には早い秋の訪れを知らせるようにコスモスが咲き乱れ、空には赤トンボが人の世を喰うように飛んでいました。玉音放送の後、少し落ち着き始めてから、先生の提案で東京に帰った時の土産として紙巻きたばこを作ることになりました。友人たちと山でイタドリを採ってきて乾燥させて細かく刻み、先生からもらった辞書を切り、たばこの長さに合わせて紙と鉛筆を巻き付けたもので作りました。持ち帰ったところ父親に大喜びされたのを覚えています。

家は焼かれ、野草を採って食べ
窓ガラスのない電車で通学した日々

疎開が終わり東京に戻ったものの、我が家は戦災で失われ、一家で品川の親戚宅に身を寄せていました。私は、その近くの品川小学校に通うことができたのですが、友人との別れがつかず、戦災で校舎を失い学校全体が間借りしていた茗荷谷の窪町小学校まで通うことになりました。北馬場〜品川〜大塚〜市電茗荷谷の通学で、私は初めて敗戦の厳しさを味わうことになりました。どの電車も窓ガラス



そつぎょうしやしん
卒業写真。竹早国民学校が焼失、窪町国民学校を借りて

がなく、そこから乗り降りするのが当たり前。時刻表は全くない状態で、体の小さかった私にとっては厳しく、つらい日々でした。

また、父親が勤務していた新子安(横浜市)の社宅も5月の空襲で焼失しており、我が家は非常に苦しい状態でしたが、母親がわずかな着物を実家(千葉県野田市)に持ち込みメリケン粉に換えて饅頭を作り北馬場駅(現新馬場駅)前で売り、売り上げてまた粉を買って、饅頭売りを繰り返していました。

また、近所の工場跡地にアカザの群生を見付け、近所の人たちと夜中に出かけて採り、茹でて食したりもしました。そんな暮らしが続いた昭和24年、東京都の戦後初の集合住宅として建築された戸山アパートの抽選に当たる幸運に恵まれ、新宿での生活が始まったのです。

書き連ねたことは多くの方々が似たような経験をされていたはずで、肉親の一人も失わずに済んだ幸運に感謝すべきかもしれません。



疎開先に届いた家族からの手紙

豆腐屋さんにあったドラム缶で、近所の人とお湯を沸かして入りました。

私の小学校は焼けてしまったので、焼けずに残った別の小学校に通ったり、プールの中で勉強することもありました。満足に勉強もできない環境だったので、私の小学校3〜4年生はぱっかりと抜けているような感じで、その後ずいぶんと苦労しました。そのうち、長野県の伊那から材木の寄付があり、職員室と教室が3部屋ほどでき、午前・午後に分かれて勉強できるようになりました。

戦後1年ほどして給食が始まりましたが、栄養士さんたちも少なかったので、父母が調理の手伝いに行っていました。「鶏だ」と言われて食べたお肉が慣れない味がしたので給食室に見に行ったら、カエルのお肉だった、ということもありました。

今の人食は食べ物に不自由なことではないでしょう。そのありがたみをしっかりと感じてほしいです。そして、今を生きる子どもたちには、戦争のない世の中で、自由にのびのびと羽ばたいてほしいと思います。

新宿区
平和都市宣言
40周年記念

未来に残す戦争のこと デジタル版の戦争体験談集を作成しました

戦後80年が経過し戦争を体験された方が少なくなる中、戦争の記憶を次世代に継承するため、区民の方等から体験談を集めました。同体験談集は新宿区ホームページ(右二次元コード)からご覧いただけます。

ぜひご覧ください



平和のつどいを開催しました

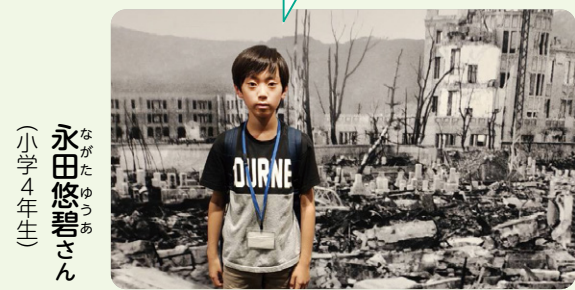
令和8年3月15日で「新宿区平和都市宣言」から40周年を迎えたことを記念し、戦争の悲惨さと平和の大切さを次の世代に伝えるための催し「平和のつどい」を開催しました。多くの方にご視聴いただくため、区公式YouTubeチャンネル「新宿区公式チャンネル」で動画配信しています。



新宿区親と子の平和派遣

地域の平和の担い手を育むため、8月に区民の親子を広島と長崎に毎年交互に派遣しています。昨年、広島に派遣した子どもたちの声を紹介します(学年は当時)。

平和は当たり前じゃないことがよく分かり、家族や毎日の幸せに感謝して過ごしたいと感じました。



ながたゆうへきさん
(小学4年生)

広島でしか聞けない話を通して戦争が現実日本に起きたことだと分かり、貴重な体験になりました。



はらだきょうすけさん
(小学6年生)

戦争の悲惨さを身近な人から伝えていくことが、小さな私にできることだと思いました。



やまぐちまいこさん
(小学4年生)

被爆した子どもの写真を見て、時代が違えば自分も同じだったかと思い恐ろしい気持ちになりました。



わたなべしんたさん
(小学4年生)

区の平和への取り組み

平和のポスター展

区立小・中学校の小学4年生〜中学3年生が平和をテーマに描いたポスターを展示します。

すいとんの会

戦争体験談を聞き、戦争中の代用食「すいとん」を食べながら平和の大切さについて懇談します。

平和マップウォーキング

区内に残されている戦争の史跡を解説付きで巡ります。

区の平和事業について詳しくは、新宿区ホームページ(右二次元コード)からご覧いただけます。

